

平成23年度 実践研究の中間報告

鹿児島市立桜洲小学校

1 研究主題

自ら進んで運動に取り組む桜洲の子の育成
～できる喜びを味わえる器械運動の学習を中心に～

2 研究主題設定の理由

(1) 本校研究の流れから

本校では、心身ともに健康な児童を育成するために、過去2年間にわたり、主に保健的な立場から望ましい生活習慣確立に向けての取組を進めてきた。昨年度からは、体育的な立場から、自ら進んで運動に取り組む態度を身に付けさせ、心身ともに健康な児童の育成を図ろうと考えた。

(2) 児童の体力低下、運動する子しない子の二極化という社会的背景から

(3) 児童・教師の実態から

児童の実態では、全学年器械運動を苦手とする割合が高かった。中でも高学年においては、マット運動・跳び箱運動・鉄棒運動の3運動全てが苦手とする運動の上位を占めていた。教師の実態においても、器械運動の指導が難しいと感じている割合が多かった。こうしたことから、器械運動の学習を中心とした教師の指導技術を向上していくことで、できる喜びを味わえる児童が増え、進んで運動に取り組むようになると考えた。

3 研究仮説

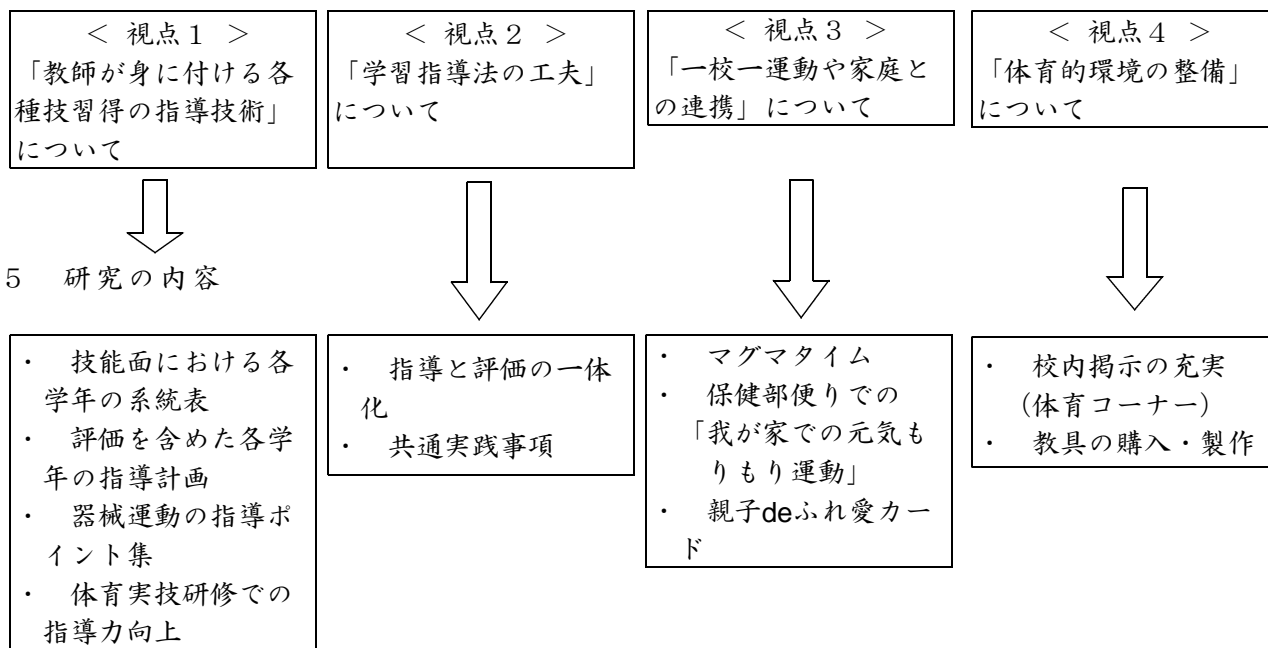
【仮説1】

教師が各種技習得の指導技術を身に付け、学習指導法を工夫すれば、子どもの動きの質が高まり、運動量が確保され、運動の喜びや楽しさを感じさせることができるのではないだろうか。

【仮説2】

一校一運動や家庭との連携を積極的に推進し、体育的環境を整備すれば、運動への意欲が高まり、自ら進んで運動するようになるのではないだろうか。

4 研究仮説を基にした視点



6 研究の実際

(1) 「視点1：教師が身に付ける各種技習得の指導技術」について

① 技能面における各学年の系統表

本校なりの身に付けさせたい動きや技をまとめた。また、教師が意識することを記載し、指導に生かせるようにした。(別紙1)

② 評価を含めた各学年の指導計画

単元の指導計画，一単位時間の重点評価項目，評価基準をひとまとめにし，指導に生かせるようにした。(別紙2)

③ 器械運動の指導ポイント集

それぞれに動きや技について，指導のポイントや段階的指導をまとめた。

④ 体育実技研修での指導力向上

7月21日(木)	講師：市教委 清水指導主事「跳び箱運動における指導の在り方」
----------	--------------------------------

(2) 「視点2：学習指導法の工夫」について

① 指導と評価の一体化

学習指導要領では，2年間のまとまりごとに目標及び内容が示されているため，器械運動における指導と評価の計画もそれに合わせおよそ2年間を見通して立てるようにした。また，1単位時間ごとに評価する項目を多く設定しすぎると評価が困難となることから，1単位時間での評価項目を重点化した。そこで評価したことを次時の指導に生かしていくことで，指導と評価の一体化を図っていくようにした。(別紙2に含)

② 共通実践事項

ア 一単位時間の指導過程

過程	時間	主な学習活動	○：教師の指導 ☆：評価 ★：重点評価
つかむ・見通す	10	1 準備運動をする。 2 きらきらタイム。 3 本時の学習のねらいと学習の流れを確認する。	○ きらきらタイムで、マット運動の基礎となる動きを養うための運動を取り入れる。(音楽) ○ 学習の約束、場の安全について確認する。
挑戦する	28	4 めあて1に取り組む。 ・ 自己評価, 相互評価(学習カード) 5 めあて2に取り組む。	○ 技のポイント, 意識することを確認する。 ○ つまずく児童に対しては, 師範したり, 補助をつけたり, 下位教材を示したりする。 ☆ 3観点評価を記すが, 指導計画を基に重点評価項目については, ★太字で示す。
ふり返る	7	6 本時の学習のまとめをする。 7 整理運動をする。	○ 練習の成果を見せ合い, 互いにアドバイスしたり, 称賛したりする場を設ける。 ○ めあての反省と次時のめあてを明確にさせ, 次時への意欲をもたせる。 ○ 使った部位をほぐす運動をゆっくり大きく行う。

イ きらきらタイム（「できる」につながる基礎となる動き）

毎時間「つかむ」過程で、実態に応じたきらきらタイムを取り入れ、器械運動に必要な基礎となる動きを養っていく。



登り棒での「足抜き回り」



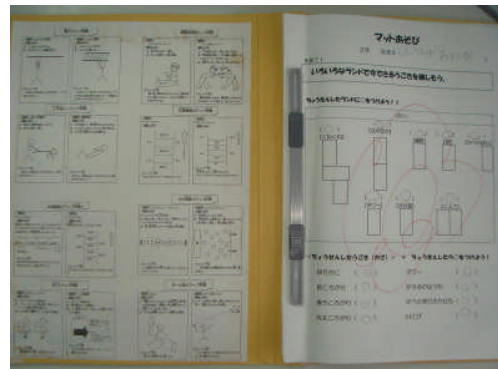
鉄棒での「膝掛け振り」

ウ スポチャンファイル

体力テストの個人カルテや学習カードや資料を綴り評価に生かす。また、継続して活用することで個人の成長や体力の高まりに気付く一助とする。表紙裏には、体力テストの項目ごとにレベルアップを図る運動例が、右側には学習カード等をファイルしていく。



全学年で使用しているファイル



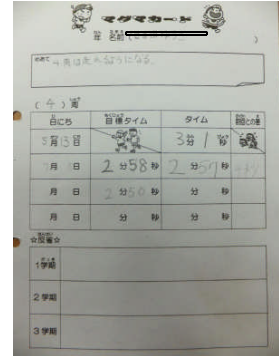
表紙裏には、体力テストの項目をレベルアップ

(3) 「視点3：一校一運動や家庭との連携」について

① マグマタイム

昨年度から始業開始の午前8時15分からの5分間を「マグマタイム」と名付け、全校でのランニングに取り組んでいる。昨年度は、一人一人にカードを配布し色をつけていき学級で「県下一周カード」に取り組んだ。しかし、取組に差が出た。そこで、今年度からは、より効果的な方法として「各学年決まった週のタイム測定」に変更した。マグマカードに記録をすることで、がんばりの成果として「タイムが縮まった」ということが明確になり、児童の意欲も高まっている。

また、2学期からは1週間に一度ずつ全学年が「固定施設遊び」をするように計画を変更した。器械運動につながる基礎となる動きの向上をねらいとしている。



朝の全校「マグマタイム」(左：ランニング/右：固定施設遊び)

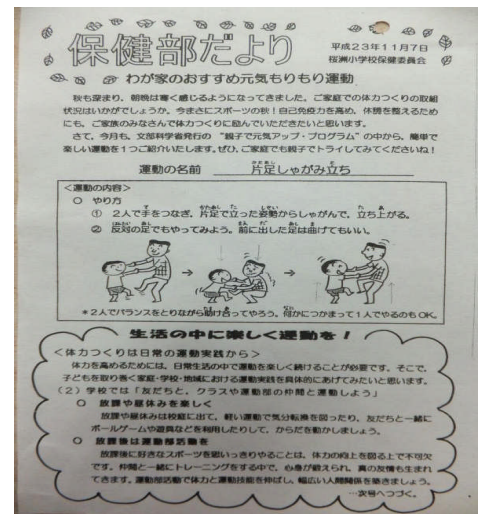
マグマカード

② 保健部便りでの「我が家の元気もりもり運動」

家庭でできる簡単な運動を募集し、毎月の保健部便りで紹介している。今年度は、文部科学省発行の「親子で元気アップ・プログラム」の中からも楽しい運動を紹介して親子でも取り組めるようにしている。

③ 親子deふれ愛カード

学級PTAの重点目標を全学年「一家庭一家訓」に統一し、親子で簡単な運動に取り組むようにしている。親子読書デー、ノーテレビ・ノーゲームデーとも併せて取り組み、月末までに回収するようにしている。



月	OX	親子で運動	親子読書	保護者からのコメント
4	テレビ	OX	運動名 フォークソング 本の題名 こびとづかん	テレビ番組「おはよう テレビ」の「こびとづかん」 は、子供が大好きな番組で、 毎朝楽しみにしています。
	ゲーム	OX	運動名 守りてよかた。 本の題名 おもしろかった。	おもしろかった。おもしろ いゲームです。
5	テレビ	OX	運動名 フォークソング 本の題名 おもしろいおもしろいおもしろい	おもしろいおもしろいおもしろい おもしろいおもしろいおもしろい
	ゲーム	OX	運動名 守りてよかた。 本の題名 おもしろかった。	おもしろかった。おもしろ いゲームです。
6	テレビ	OX	運動名 親子ストレッチ 本の題名 しぎなナイフ	親子ストレッチに参加 しました。おもしろい おもしろいおもしろい
	ゲーム	OX	運動名 3回からつかしり 本の題名 しぎなナイフ	しぎなナイフ。おもしろ いおもしろいおもしろい
7	テレビ	OX	運動名 はかどや 本の題名 はかどや	はかどや。おもしろ いおもしろいおもしろい
	ゲーム	OX	運動名 はかどや 本の題名 はかどや	はかどや。おもしろ いおもしろいおもしろい
8	テレビ	OX	運動名 フォークソング 本の題名 夏のお話でおもしろかった	テレビ番組「おはよう テレビ」の「夏のお話」 は、子供が大好きな番組で、 毎朝楽しみにしています。
	ゲーム	OX	運動名 おもしろいおもしろいおもしろい 本の題名 なつねこ	おもしろいおもしろいおもしろい おもしろいおもしろいおもしろい
9	テレビ	OX	運動名 親子バレー 本の題名 おもしろいおもしろいおもしろい	親子バレー。おもしろ いおもしろいおもしろい
	ゲーム	OX	運動名 アタ、アタでよかた。 本の題名 アタ、アタでよかた。	アタ、アタでよかた。おもしろ いおもしろいおもしろい
10	テレビ	OX	運動名 フォークソング 本の題名 おもしろいおもしろいおもしろい	おもしろいおもしろいおもしろい おもしろいおもしろいおもしろい
	ゲーム	OX	運動名 おもしろいおもしろいおもしろい 本の題名 おもしろいおもしろいおもしろい	おもしろいおもしろいおもしろい おもしろいおもしろいおもしろい

(5) 「視点5：体育的環境の整備」について

① 校内掲示（体育コーナー）の充実

苦手意識が強い鉄棒運動に、より関心を持てるように、児童玄関前に技のポイントと動きが分かる資料を掲示している。

その他、体育館入口には、「縄跳びカード」の級に合わせて有段者の名前と顔写真を貼るようにしている。



② 必要な教具の購入や作製

今年度から鹿児島市の研究指定を受け、来年度公開授業を控えている。そのため、器械運動の学習が更に充実するように、各運動に必要な教具を購入している。跳び箱やケンステップ、踏み切り板調整板、手型足型、逆上がり補助具などである。また、自分たちで作製しているものもある。腰角ボードや様々な学習の導入として使える多様な動きの運動の掲示資料などである。

7 研究授業から

① 10月27日（木）に、第1回目の研究授業を第3学年で行った。（別紙3）

視点：仮説1より

- ◎ 評価計画をもとにした適切な評価がなされるような学習であるか。
 - ・ 評価を見取ることができる学習カードや発問、観察の仕方であったか。
 - ・ 評価規準が適切であるか。



3列ある鉄棒を「補助逆上がり」「膝掛け振り上がり」「発展技」に分けた。グループ編成は、身長を規準に得意な子・苦手な子がバランス良く分かれるようにした。そうすることで、グループごとの様子を観察しやすくした。また、安全に運動ができるように、待機する児童は白線で待つように約束している。

3年生なりの学び合いとして、補助逆上がりでの補助や技のポイントの教え合いを取り入れた。補助の仕方を掲示資料や実技で示すことで、安全面にも配慮した補助ができるようにした。また、練習前に技のポイントや見るポイントを確認することで、友達の動きに気付きやすくした。



3年生で身に付けたい基本的な技について、段階的指導法の掲示資料を用意した。各技を達成するためにどのような練習が必要なのか、どんな順番で行えばよいのかが分かる。たとえ技ができなくても、個に応じた段階をクリアすれば、達成感を得ることができる。学習カードとしても活用しているので、教師はそれぞれの達成度を把握でき、評価・指導に生かすことができる。

目指せ！！鉄ぼうマスター！
～ マスターへのステップ～
＜ほ助さか上がり＞

1	● だんご虫が10びょうできる。		1 ちゅうじして	2 一回できた	3 三回連続できた
2	● ふとんほしからのおき上がりができる。		1 ちゅうじして	2 一回できた	3 三回連続できた
3	● のぼりぼう、鉄ぼうでの足ぬき回りができる。		1 ちゅうじして	2 一回できた	3 三回連続できた
4	● 二人組でのほ助さか上がりができる。		1 ちゅうじして	2 一回できた	3 三回連続できた
5	● ふみ台やほ助きを使って、ほ助さか上がりができる。		1 ちゅうじして	2 一回できた	3 三回連続できた
6	● さか上がりができる。		1 ちゅうじして	2 一回できた	3 三回連続できた

段階的指導法を記した学習カード



振り返る過程では、できるだけ多くの児童に発表させるようにしている。特に、初めてできるようになった児童は必ず発表させ、自信につなげ意欲の持続を図っている。進んで発表したいという児童が多く、態度面での高まりが見られた。

8 成果と課題（11月現在）

(1) 成果

- ・ 器械運動領域での評価規準を含めた指導計画ができあがりつつある。
- ・ 各学年で重点的に取り扱う技の系統を明らかにすることで、指導すべき動きや技がはっきりしてきた。
- ・ 主に鉄棒運動の研究を進めてきたが、自主的に鉄棒の練習をする児童が増えた。

(2) 課題

- ・ 指導計画の更なる工夫改善。
- ・ 評価を見取ることにつながる学習カードの作成。
- ・ 学習活動に則した評価規準の設定。